



「放課後学習見守り」復活（5/22～上道小）

上道地区有志による放課後学習見守り活動「いちようっ子放課後クラブ」が、コロナ禍の中断を経て、3年ぶりに復活しました。この活動は令和元年10月、家庭学習に取り組みにくい子どもたちに場所と時間を保障し、進んで学習する習慣を育てようと始まり、研修等で多忙な先生方に代わり、住民が学習を見守ってきました。

今年参加しているのは保護者の同意を得て学校に申し込んだ1～6年計21名。見守るボランティアは16名で、「教えない」を基本に、子どもたちが自力で問題に取り組み解決していくのを見守ります。

取材に伺った25日、子どもたちは静かに漢字の書き取りや計算問題に取り組んでいました。会場の上道小図書館は必要な資料や辞書を手取るのに都合がよく、「頑張るぞ！」という意欲がさらに高まるようでした。

【ボランティアの方の話】

- ✪高学年が低学年をみてやる姿が見られるようになりました。（足立のり子さん）
- ✪学習会が復活してうれしいです。ボランティアが増えて無理なく参加できるようになればと思います。（遠藤博江さん）



学習する子どもたちと見守るボランティア

境小の「地域に学ぶ」学習（5/29,30）

◆2年生、名人に「野菜づくり」を学ぶ

生活科の学習で、地域ボランティアの根平仁史さんの指導の下、29日に教室で野菜の育て方を学習し、翌日は運動場横の学年園にキュウリ、ナス等を植えました。

根平さんは「聞くだけではよくわからないから」と両日とも手作りの資料を準備されていました。その思いが天に通じたか、土砂降りだった雨も30日の午後には止み、子どもたちは心を込めて土をかけ、支柱を立てていました。



「優しく植えてやってね」

◆3年生、伝統の「伯州綿」を学ぶ

3年生は社会科で自分たちの生活と農業の結びつきについて学ぶ一環として、弓浜半島の特産「伯州綿」について学びました。29日は、境港市地域おこし協力隊の方から概要を聞いた後、雨の中、一人一人伯州綿の種をまきました。体験を通して地域の歴史を学ぶことで地域への関心が高まり、地域を愛する心や態度が育ちます。

「子どもたちの安全が第一！」

大イチョウの伐採決まる！上道小

創立150周年事業 「二代目」を植樹へ

一中校区学校運営協議会会長

（上道小学校150周年記念事業実行委員会委員）岩本和貴

このほど、上道小学校創立150周年を記念して、正門前の2本のイチョウを伐採し、新たにイチョウを記念樹として植えることにしました。

これらのイチョウは高さ約15mで、非常に古い木であり、危険が以前から指摘されていました。この冬の大雪の際には、太い枝が折れて歩道に落下しました。幸いなことに、この時は登下校時間ではなかったため、けが人は出ませんでした。しかし、鹿児島県では昨夏、地域のシンボルだったイチョウの8mの枝が折れ、作業中だった校長先生に直撃、亡くなるという事故が発生しています。

イチョウは上道小学校のシンボルであり、子どもたちは「いちようっ子」と呼ばれています。イチョウがなくなることは卒業生や地域の皆さんにとって寂しいことだと思いますが、子どもたちの安全が最優先です。

新しい苗木を植えることで、私たちの思いを次世代に伝えていきますので、ご理解頂きますようよろしくお願いいたします。



夏の「見守りあいさつ大作戦」



7月10日(月)～14日(金)

「地域みんなが顔なじみになって、一中校区の子どもたちを育てよう」をめあてに年3回行っている、一中校区CS主催「見守りあいさつ大作戦」。夏の大作戦を上記の期間に行いますので、ぜひご協力下さい。

✪一人一人ができる時に、できる範囲で、気楽に、出会う子どもたちに声をかけて下さい。地域の団体や事業所の皆さんも、ぜひよろしく願いいたします。

✪「散歩しながら」「庭仕事しながら」「ジョギングしながら」などの「ながら見守り」、大歓迎です！

※のぼり旗をお持ちの皆さんは、ぜひ立てて下さい。いたんでいましたら、遠慮なく、



一中内CS事務局までお知らせ下さい。 一中HP QRコード